

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530633

研究課題名(和文)美容実践を通じた中高年女性のアイデンティティの実証研究：世代・メディア・国際比較

研究課題名(英文)Empirical research on the middle aged females' identities through their esthetic practices: Generation, Media, and International Comparison

研究代表者

谷本 奈穂(Tanimoto, Naho)

関西大学・総合情報学部・教授

研究者番号：90351494

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中高年女性が美容整形および美容医療を通じて、どのようなアイデンティティを形成しているのかを明らかにするべく、文献調査、雑誌の資料分析、アンケート調査(20代～60代の男女2860名)、インタビュー調査(美容整形等経験者と施術を行う医師)など実証的な調査を試みている。中高年女性に関する社会的認識を深化させ、論文(図書への寄稿含む)7本を著し、国際発表や学会招待講演など発表を5本行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to make it clear what identity the middle aged females create through cosmetic surgery and esthetic medical.

I researched some literatures, analyzed the discourse of the magazines, conducted the questionnaire and interviewed to the persons who were operated on for cosmetic surgery, and the doctors who operated for cosmetic surgery).As a result, I succeed in deepening the sociological thought on the middle aged female.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：身体 美容 中高年 女性

1. 研究開始当初の背景

茶髪、ピアス、ボディタトゥーなど、身体加工に対する許容度は大きくなり、美容整形や美容医療（プチ整形などと呼ばれることもあるメスを使わない美容整形）までもが流行しつつある現代の日本で、人がどのような身体をつくりあげるかは、その人のアイデンティティを決定する重要な契機となっている。にもかかわらず、身体加工に関する社会学的研究は多くなかった。美容整形に関する研究となると、さらに少ない。しかし、現代社会を考える上で、人々の身体加工の現象を捉える必要があると考えた。

さらに、美容整形やその他の身体加工が、若者の行うこととして認知されてきたことも鑑み、これまで考察の対象とされてこなかった中高年女性に焦点を当てる必要もあると考えた。というのも、これまで私が調査したところでは、美容整形手術を行う中高年の女性が増加しているからである。また、メディアにおける変化もあり、年齢より若い外見をしている「美魔女」という言葉が流行したように、中高年女性向けのファッション誌や美容専門誌が登場し、注目を集めたことも関係している。これまでは中高年女性向けの雑誌は、家事や育児、あるいは生き方にまつわるライフスタイル誌が中心であったのである。実際の調査結果やメディアの変動から、熱心に身体加工を目ざした活動を行っている中高年女性について、考えることで、高齢社会を迎えつつある今、あらたな女性の「年若い方」の一つのモデルが模索できると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中高年女性が美容実践

(美容整形と美容医療)を行うことを通し、どのようなアイデンティティを形成しているのかを明らかにすることである。従来、社会学における中高年女性の議論は、エイジズムや差別の問題、介護や福祉、自立の問題、家族関係と関連づけられてきた。だが、近年、新たな中高年向けのメディアが登場し、社会学の論調とは異なる女性像を喧伝している。それは介護や差別といったイメージとは違う新たな中高年女性像はあるが、実際にはエイジズムの問題と根深く絡み合った女性像である。そこで、まずは、喧伝されている中高年女性像を明らかにし、そして同時に実際に美容実践を試みる彼女たちがどのような自己像を描いているのかを実証的に探ることが重要となる。その際には、若者の美容実践との比較、メディア言説と実際の意識の比較などの作業が必要となるだろう。以上のような作業を通じて、中高年女性に関する社会学的認識を深化させることが目的である。

3. 研究の方法

具体的な研究方法は以下の通りである。

第一に、中高年女性における美容実践の実態を把握することである。具体的には、アンケート調査を行った。美容整形については、中高年女性のものに限らず正確なデータが公的に発表されていない。したがって、美容整形と美容医療が実際にどの位の人が希望し、どのくらいの人が経験したかについてアンケート調査を実施し把握した。

第二に、中高年女性の美容整形・美容医療に対する心理的メカニズムを明らかにすることである、具体的には、インタビュー調査を行った。中高年女性のうち、実際に美容整形や美容医療を経験した人に「なぜ受けるのか」、「受けた後どう感じたか」などインタビューを行い、その心理的メカニズムを把握していく。また、美容整形など

を経験した者だけではなく、施術を行う医者
の側にもインタビューを行い、医学の側
で美容整形に対してどのような論理が働い
ているかも把握した。

第三に中高年女性向けメディアの内容分
析を行う。1990年代以降に登場し、2000
年代に本格化した、中高年女性向けのファ
ッション雑誌、美容雑誌、インターネット
のサイトの内容を、質的データマイニング
ソフトで分析した。

第四に、上記の調査を通じて、比較検討
を行う。まず、若者の美容実践と中高年層
のその異同を検討する。次に、メディア
で語られる女性像と、実際に調査した意識
も比較する。さらに、医者の言説と、美容
整形を受ける側の言説の比較も行う。これ
らの比較検討を通じて、日本における中高
年女性の美容実践を通じたアイデンティテ
ィ形成のあり方を多角的に考察した。

4. 研究成果

平成 23 年度は、美容整形に関わる文献を
収集した。そして、25～65 歳の男女 800 名に
対して、美容意識に関するアンケート調査も
実施し、同時に、インタビュー調査も行っ
ている。美容整形経験者に対し 2 名、美容外科
手術を行う医師に対して 4 名に対して行い、
それらインタビューのテープ起こしを行い
データ化している。研究会において随時、調
査内容は発表し、コメントをもらうようにし
た。また、日本美容外科学会への出席、花王
株式会社の化粧品研究員との意見交換、美容
雑誌のテキスト入力作業なども行った。

平成 24 年度も文献と資料の収集を行っ
ている。前年度に行ったアンケート調査を分
析し、論文として著した。同じく前年度に
入力作業を行った雑誌テキストについて、
内容分析を行った。インタビューや聞き取
りに関しては美容皮膚科 1 名、美容外科医
で NPO 法人アンチエイジングネットワー

クの会長に行った。学会発表を第 85 回日
本社会学会大会で行い、日本マス・コミュ
ニケーション学会マルチメディア部会にて、
女性と身体に関連する研究会を企画・実施
し、日本心理学会内の研究会で招待発表も
行った。その他の研究会において随時、調査
内容を発表した。図書も 1 冊、分担執筆の
形で出版している。

平成25年度は、引き続き、文献・資料収
集を行い、単行本以外に女性雑誌も収集し
た。そして、20～69歳の男女2060名にアン
ケート調査を実施し、データの整備と分析
を実施している。論文は3本を著し、図書は
4冊に寄稿しそれぞれ出版されている(近刊
を含む)。講演等については、家政学会、美
容外科学会において招待講演、London Asia
Pacific Cultural Studies Forum
(University of London)において国際発表、
寝屋川市男女共同参画推進センターでも講
演を行った。その他の各研究会においても
随時、研究報告を行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者
には下線)

[雑誌論文](計5件)

1 谷本 奈穂「社会学からひもとく美容
整形と美容医療」『国民生活』20号、
2014年、独立行政法人国民生活センター、
1～5、査読・無

2 谷本 奈穂「人はなぜ美容整形をするの
か」『シノドス(ウェブ雑誌)』、
<http://synodos.jp/society/5274>、2013年、
査読・無

3 谷本 奈穂「ミドルエイジ女性向け雑誌に
おける身体の「老化」イメージ」『マス・コ
ミュニケーション研究』20号、日本マス・
コミュニケーション学会、2013年、5～29
頁、査読・有

4 谷本 奈穂「美容整形・美容医療を望む
人々—自分・他者・社会との関連から」
『情報研究』37号、関西大学総合情報学部、
2012年、37～59頁、査読・無

5 谷本 奈穂「美容整形の社会学」『乳房文
化研究会』15巻、(株)ワコール、2011

年、115～129 頁、査読・無

〔学会発表〕(計 11 件)

1 谷本 奈穂「美容整形 / 美容医療を望む人々の意識分析」(招待講演) 美容外科学会、2013 年 10 月 17 日、於東京国際フォーラム

2 Naho Tanimoto, “Cosmetic Surgery and Cosmetic Medical Care in Contemporary Japan” 2013 年 9 月 9 日, London Asia Pacific Cultural Studies Forum (University of London)

3 谷本 奈穂「女性雑誌の変遷と作り出される女性像」寝屋川市男女共同参画推進センター、2013 年 9 月 5 日、於ふらっと市民セミナー

4 谷本 奈穂「美容整形・美容医療に対する意識分析」(招待講演) 家政学会被服心理部会 30 周年記念夏季セミナー、2013 年 8 月 20 日、於大阪成蹊短期大学

5 谷本 奈穂「美容実践に関心を持つ人々」第 20 回大阪大学社会学研究会、2013 年 7 月 20 日、於大阪大学

6 谷本 奈穂「美容意識に関する一考察：美容整形を中心に」(招待講演) 日本心理学会「よそおい・しぐさ研究会、2013 年 2 月 17 日、於関西大学

7 谷本 奈穂「女の子文化・身体・メディア」マスコミ学会マルチメディア部会第 33 期第 10 回研究会(ワークショップの企画と司会) 2013 年 2 月 9 日、於関西大学東京センター

8 谷本 奈穂「ポピュラー文化ミュージアムとは何か(2)ー化粧品を展示する困難と可能性」第 85 回日本社会学会大会、2012 年 11 月 3 日、於札幌学院大学

9 谷本 奈穂「ポピュラー音楽における携帯電話の意味」社会情報学会大会、2012 年 9 月 16 日、於群馬大学

10 谷本 奈穂「身体加工の社会学」化粧文化研究者ネットワーク、2011 年 12 月 10 日、於資生堂ビューティークリエーション研究センター

11 谷本 奈穂「見た目治療に向かう女性心理」(招待講演) 日本抗加齢医学会分科会、2011 年 8 月 7 日、於 AP 梅田

〔図書〕(計 6 件)

1 谷本 奈穂(分担執筆)『ジェンダーで学ぶ社会学』(伊藤公雄・牟田和恵編) 2014 年(出版確定) 世界思想

2 谷本 奈穂(分担執筆)『データで読む現代社会：ライフスタイルとライフコース編』(山田昌弘・小林盾編) 2014 年(出版確定) 新曜社

3 谷本 奈穂(分担執筆)『恋愛ドラマとケータイ』(編) 2014 年、青弓社、191～222 頁

4 谷本 奈穂(分担執筆)『科学化する日常の社会学』(西山哲郎編) 2013 年、世界思想社、53～88 頁

5 谷本 奈穂(分担執筆)『ポピュラー文化ミュージアム』(石田佐恵子・村田麻里子・山中千恵編) 2013 年、ミネルヴァ書房、103～125 頁

6 谷本 奈穂(分担執筆)『反戦と好戦のポピュラーカルチャー』(高井昌史編) 2011 年、人文書院 153～192 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷本奈穂(TANIMOTO, NAHO)
関西大学・総合情報学部・教授
研究者番号：90351494